

第12回障害者問題全国交流会プログラム

「創ろう、障害者と共に生きる企業、地域、社会」

記念講演

「変革は、弱いところ、小さいところから」
～社会福祉法人「北海道・浦河べてるの家」の実践が教えるもの～



講師 清水 義晴 氏
えにし屋 代表(新潟県新潟市在住)

北海道は襟裳岬の近くに位置する、人口1万6千人の町・浦河町。この小さな町にある精神障害をかかえた人たちの有限会社・社会福祉法人「浦河べてるの家」は今、多くの人の注目を集めています。「病気になってよかった」と胸を張るメンバー、トラブルを起こす人に「順調だね」と声をかけるソーシャルワーカー。“真面目”に精神医療の貧困や精神病に対する差別を憂える人を脱力させ新たなエネルギーを注入してしまう不思議な人たち。そのユニークで豊かな発想とは。

プロフィール

昭和24年新潟市生まれ。早稲田大学法学部卒業後、実家の印刷会社である(株)博進堂に入社。その後、父親(社長)の突然の死により、(株)博進堂の経営を弱冠26歳で引き継ぎ、教育・デザイン・美術・出版と、次々に新事業に取り組み、総合文化事業を作り出して来た。その後、弟に経営を譲り、現在、えにし屋主宰として、町づくりのプロデューサーやワークショップの開発、ファシリテーターの養成など、人や自然を活かす事業を展開している。北海道の浦河にある「べてるの家」との出会いの中から、映画「ベリー・オーディナリー・ピープル～とても普通の人々～」を制作した。著書に「ワークショップは宝の山」(PS文庫)「変革は、弱いところ、小さいところ、遠いところから」(太郎次郎社)など。

第3分科会

「ユニバーサルデザイン」
(東京同友会)



報告者 望月 優 氏
(視覚障害者・全盲)
(株)アメディア 代表取締役

「情報のユニバーサルデザイン」

～テクノロジーの進歩を障害の軽減につなげる～

POINT

視覚障害者の支援商品を扱う(株)アメディア。自らが視覚障害者でもある望月氏は、「テクノロジーは障害の軽減のために用いられなければならない」を経営理念に置き、創業して15年。本の活字をスキャナーで読み取り、音声で読み上げる「ヨメール」を開発し、急成長したが、大手ソフトメーカーの参入、ネット環境の急激な変化、財務力、開発力で現在苦戦を強いられています。今後はユニバーサル・デザインの視点も盛り込み、健常者の市場にも進出したいという目標を持ちながら新たな商品開発、市場開拓に挑んでいます。

会社概要

■創業/1989年 ■社員数/15名(うち、女性7名、視覚障害者3名) ■資本金/3,200万円 ■事業内容/1.視覚障害者及びその介護者向けパッケージ・ソフトの開発 2.視覚障害関連ソフトの受託開発 3.視覚障害者向け機器の開発 4.視覚障害者向け電子機器の販売 5.視覚障害者向けシステム・コンサルタント・サービス

第1分科会

「障害者の雇用」
(富山同友会)



報告者 山崎 宗良 氏
山崎コンクリート工業(株)
常務取締役

「障害者雇用は良い会社のバロメーター」

～願いは、働くことを通しての社会自立！～

POINT

兄の障害を機に、父母は障害者を雇用する会社起業を決意します。定着してもらうために、自宅で寝食を共にしての共同生活。障害を持つ人が自立し、社会の中で暮らす事を夢見て、悪戦苦闘の連続。昭和55年、父の死で社長となった母と共に、家族的雰囲気大切にきた父の思いを継承して経営にあたってきました。しかし経営環境が厳しさを増す中で、いかに職場適応してもらうのか？同時に、雇用を継続させながら経営を成り立たせるのか？という点をクローズアップしながら、障害者雇用の課題と展望を考えてみたいと思います。

会社概要

■創業/1961年 ■社員数/20名(うち、知的障害者10名) ■資本金/2,800万円 ■事業内容/コンクリート2次製品製造販売、鬼瓦白地製品製造販売

第4分科会

「パネル討論」
(福島同友会)

●パネラー



大竹 静子 氏
特定非営利活動法人
シャローム 代表



大橋 雄二 氏
銀額食品工業(株) 代表取締役社長



鳴原 弥 氏
福島市障害者スポーツ協会 会長



福田 順一 氏
(株)ハッピーケア 代表取締役社長
(福島同友会)



福原 修一 氏
日栄工業(株) 代表取締役社長
(福島同友会)

●コーディネーター

「ちがって当たり前、個性と個性のネットワークを」

～いま、私たちに出来ること～

POINT

障害者と共に生きる社会の地域ネットワークに、同友会は、どうかかわって行くか。障害を持つ人も持たない人も、共にその命と存在を認め合う当然の関係とは何か。働くことは人の生きがいそのものであり、その平等な権利を全ての企業が受け入れるには、企業、地域、社会のあり方を根本から見つめ、いま私たちに出来ることを考えます。

第2分科会

「障害者の実習受け入れ」
(愛媛同友会)



報告者 小田 美恵 氏
(有)愛媛企画 代表取締役

「共育の原点とは」

～強くなければ生きて行けない、やさしくなければ生きて行く資格はない～

POINT

昨年3月に、愛媛県立第3養護学校(知的障害)の3年生を1ヶ月間職場体験学習で受け入れました。彼女(生徒)の働く姿に共感し、採用を決意しますが…。しかし、彼女の家族や学校関係者は適正に不安を感じ、採用についていくども話し合いをもちました。両親から「役に立たなければ、やめさせて下さい。」の一言に、両親の思いを感じると同時に、彼女を自立させる援助をしたいという思いが強くなる。何もさせなかった、何も出来なかった彼女から、経営理念を中心とした社員とのかかわりを通して、現在では自立のきざしと社員への“共に育つ”社風の浸透が今始まりました。

会社概要

■創業/1973年 ■社員数/8名 ■資本金/1,000万円 ■事業内容/モーター業界における総合サービス業

第5分科会

「見学・体験分科会」
(福島同友会)



「障害者もその施設も、真の自立をめざして」

～授産施設「経営」への取り組み…鮫川たんぼぼの家の挑戦！～

POINT

福島県南部の山間に位置し、人口4,600人・世帯数1,100戸あり、路線バスすらほとんど通らない鮫川村。鮫川たんぼぼの家では、雇用の受け皿探しよりもむしろ自分たちで仕事を作り出し事業化していく「自立」をめざして、現在までにキムチの原料となる野菜、村特産のじゅうねん(エゴマ)によるドレッシングやジェラートなど次々と独自商品を開発し、販路を切り開いて来た。これらは、農作物栽培での地域の皆さんからの指導や同友会会員をはじめとした地域企業とのネットワークにも支えられ、商品の一つである“じゅうねんドレッシング”は2003年度の“ふくしま特産品コンクール”食品部門で大賞を受賞した。様々な作物を育てる畑での作業も障害者と共に「体験」し、地域と共に真の自立をめざす姿を学びます。

社会福祉法人鮫川福祉会 鮫川たんぼぼの家

■知的障害者授産施設 ■1998年に分場として設立。2003年に鮫川福祉会として独立。職員7名、通所者20名。 ■報告者 白岩 八重子 氏(鮫川たんぼぼの家 施設長)

第12回障害者問題全国交流会のスケジュール

10月21日(木)

10月22日(金)

時間	内容
12:30~13:30	受付
13:30~18:00	分科会(4分科会・1見学分科会)
18:00~19:15	チェックイン・入浴
19:15~21:00	懇親会
21:00~22:30	二次会(任意参加)

時間	内容
7:00~ 8:30	朝食
9:00~ 9:30	全体会(主催者挨拶・開催地挨拶・来賓挨拶)
9:30~10:10	分科会報告
10:10~10:20	休憩
10:20~11:40	記念講演
11:40~12:00	まとめ

会場案内

[会場・宿泊]

福島県石川町母畑温泉「八幡屋」

福島県石川郡石川町母畑温泉 TEL.0247-26-3131
http://www.yahataya.co.jp/

[交通機関]

■新幹線をご利用の場合

東京駅より新幹線で郡山駅まで1時間20分

(郡山駅より会場までバスで送迎致します。
バスの出発時間は11:30または12:15のどちらかをご利用下さい)

■お車をご利用の場合

東京より東北自動車道、矢吹ICまで約2時間25分
矢吹ICよりあぶくま高原道路、玉川ICまで約10分
玉川ICより県道42号線にて母畑温泉まで約10分

■福島空港をご利用の場合

福島空港より約15分(バスで送迎致します)



参加要領

【申し込み方法】

下記申込書にご記入の上、所属の同友会事務局までお願いいたします。

【締め切り】

- ◆第1次締め切り 9月 3日(金) ●キャンセル期限 10月12日(火)
- ◆第2次締め切り 9月30日(木) (以降のキャンセルは全額ご負担いただきますのでご注意ください)

第12回障害者問題全国交流会申込書 (都道府県)

氏名	会社名	役職	性別	分科会	
				第1希望	第2希望

第12回 障害者問題全国交流会

創ろう、障害者と共に生きる企業、地域、社会。

—めざそう、すべての同友会に障害者委員会の設立を。—

2004年 10/21木・22金
(平成16年)

21日/分科会・13:30開会 22日/全体会、記念講演・12:00閉会

会場/母畑温泉「八幡屋」 福島県石川町(会員経営の温泉旅館)

参加費/25,000円(宿泊あり)・15,000円(宿泊なし)

きてくたされ、
ふくしまけん。

主催/中小企業家同友会全国協議会

TEL.03-5953-5721 FAX.03-5953-5720
http://www.doyu.jp

設 営/福島県中小企業家同友会

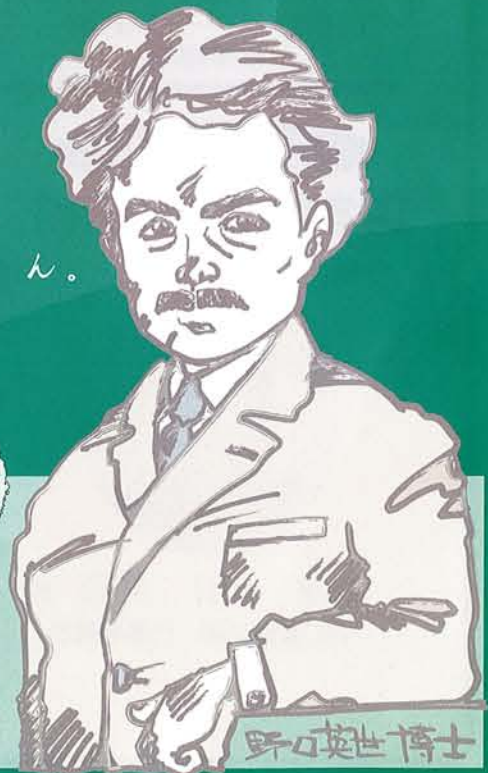
TEL.024-934-3190 FAX.024-934-3089
http://www.fdoyu.or.jp mail f-doyu@fdoyu.or.jp

規 模/500名

後 援/福島県・石川町・福島県教育委員会・厚生労働省福島労働局
福島県養護教育学校長会・福島県障害者雇用促進協会
福島県社会福祉協議会・福島民報社・福島民友新聞社
NHK福島放送局・福島テレビ・福島中央テレビ
福島放送・テレビユー福島・ラジオ福島・ふくしまFM

協 賛/日本障害者協議会・きょうされん

福島県は
野口英世の故郷です。



野口英世博士